優秀賞

ウワァー

茨城県　日立市立坂本小学校二年　矢板　澪佳

あつい夏の日、「ピタッ」とあみ戸にせみがとまりました。いつも木にとまって、とても大きな声でミンミンないているせみが、あみ戸にぴたっ。びっくりです。「ウワァー」と言いたかったけど、そっとそっと近づいていきました。そしたら、とつぜん、ギーとかガーとか音を出して、とんでいってしまいました。その動きは、とてもすばやくていっしゅんでした。

あみ戸のせみのことがあってから、せみのことが気になりました。それは、なき声だけではなくて、道ろやにわのあちこちにしんでしまったせみを見かけたからです。「ウワァー、ここにもある」「ウワァー、あそこにも」。わたしの家のちゅう車場にもいました。それを見たらせみはどんな生活をしているのかなぁと思いました。

家の図かんを使ってしらべてみました。せみはいくつもしゅるいがあって、あみ戸にとびこんできたのは、どうやらミンミンぜみでやっと地上に出てこられたみたいです。

せみって、たまごからかえると、そのまま土の中にもぐって七年間土の中で大きくなることが分かりました。わたしは今、七才です。だからわたしが生まれた年のたまごたちが、今おとなのせみになって、ないているということです。めっちゃ長い間土の中にいたなんて、またまた「ウワァー」です。しかも、せっかくおとなになれても、だいたい二週間しか地上で生きていられないことも分かりました。それを知って、またまた「エー」です。その少ない時間で、次の子どもたちへいのちのリレーをしているんです。すごいことですよね。でも、わたしは心の中で「そうなんだ、でもなんだかかわいそうだな」と思いました。

せみは、今あちこちのお気に入りの木を見つけて、大きな声でないています。せみのからだをよくみると、はねの下のおなかのあたりをふるわせて、まげながらないています。それは、本当に、いっしょうけんめいです。たった二週間でなか間を見つけて、いのちのリレーをする。そんなせみのことが分かってきたら、今まで近くでなくと、「うるさあい」と言っていたけど、「うるさいなぁ」になって、「がんばれえ」になり、せみたちをおうえんしてあげようかなぁと思いました。

今まで「うるさあい」と、言っていてごめんね。せみは、せみにしかできない方ほうで、「夏だよ」って知らせてくれたり、こん虫さいしゅうで楽しませてくれたりしてたんだね。みんなのえがおづくりをしてくれたんだ。

たった一ぴきのせみがわたしの家にきてくれました。近くにきて、あいさつしてくれたみたいです。そのおかげで、せみからいろいろなことを教えてもらえました。いのちのたいせつさも。さいしょは、「ウワァー」だったけど、みじかくても元気に前にすすもうとするせみのすがたにとてもかんどうしました。